

なぜ大腸がん検査が必要なのか

■大腸がん検査の必要性

大腸がんによる死亡数、罹患率は年々増加傾向にあり、**死亡数は結腸がん、直腸がんを合わせると女性では1位、男性では3位**となっています。罹患率は急激に増えていますが、**早い段階で発見された場合の生存率は非常に高いので、早期発見が重要です**。特に家族歴がある方、心配な方は、一度、大腸がんの精密検査をお勧めします。

■大腸がん検査はどのようにすれば受けられるのですか

一般的な検査が**便潜血検査（2日法）**です。非常に簡便な検査で大腸精密検査を必要とする人を拾い上げる検査として有用な検査です。定期的に便潜血検査を受ければ浸潤大腸がん（がんが粘膜よりも深い層に及んでいるもの）の約8割を見つけることができますが、残り2割の大腸がんでは便潜血が陰性となってしまいます。

陽性の場合には、保険診療で大腸3D-CTや大腸内視鏡検査を受けることができます。人間ドックではオプションで大腸内視鏡検査や大腸3D-CT検査を行う事があります。（[▶オプションメニューのご案内](#)）

■大腸の精密検査にはどのようなものがあるのですか

大腸3D-CT検査と大腸内視鏡検査があります。**当クリニックの大腸3D-CT検査は2007年開院時より行っており、長年の経験があります**。大腸内視鏡検査は**全例内視鏡専門医**が行っており、鎮静剤や炭酸ガスなどを使用することで検査に伴う苦痛の軽減に努めています。（[▶当クリニックのスタッフ](#)）

| | 大腸 3D-CT 検査 | 大腸内視鏡検査 |
|----|---|---|
| 長所 | <ul style="list-style-type: none"> ・苦痛の少ない検査です。 ・大腸内視鏡の挿入が困難な方でも行えます。 ・大腸穿孔や出血などの偶発症が極めて稀です。 ・大腸の全体像や病変の形状、他臓器との位置関係が正確に把握できます。 | <ul style="list-style-type: none"> ・直接腸内を観察できるため、病変を見つける能力に優れています。 ・病変があった場合、組織の採取が可能です。 |
| 短所 | <ul style="list-style-type: none"> ・組織の採取ができないため、場合によっては大腸内視鏡検査を受ける必要があります。 ・大腸粘膜面の色調変化が観察できません。 ・平坦な病変や5mm未満の場合は発見できないこともあります。 | <ul style="list-style-type: none"> ・腸管内に内視鏡を入れて観察するため、苦痛を伴う場合があります。 ・稀ですが、内視鏡で腸内を傷つける場合があります。 |

■大腸の精密検査を受けたいのですが

※**消化器外来を受診いただきご相談ください**。

※**人間ドックを受ける予定のある方は、オプションで大腸検査を行うことができます**。予約担当にご相談ください。（[▶予約・お問合せ](#)）